

問1 北海道の歴史や文化において、古くからこの地に居住しているアイヌの人々に関する説明として、最も適切なものを選びなさい。（2016年 群馬県公立入試 類似）

1. 明治時代に北海道を開拓するために、農業を行いながら北方警備を担当した人々である。
2. 独自の言語であるアイヌ語を持ち、自然界のあらゆるものに魂が宿ると考える独自の文化を育ててきた先住民である。
3. 鎌倉時代に本州から渡り、北海道南部の館（たて）を中心に和人の勢力を広げた武士の集団である。
4. 江戸時代に徳川将軍家から北海道の支配権を認められ、松前藩を組織して交易を独占した一族である。

問2 北海道において、近年、冬季の外国人宿泊者数が夏季の宿泊者数を上回るほどに急増している背景として、最も適切な理由はどれですか。（2018年 山形公立入試 類似）

1. 質の高い雪（パウダースノー）を求めて来日するスキー客の増加や、雪まつりなどの冬特有の観光資源が海外で高く評価されているため。
2. 冬季は夏季に比べて航空運賃や宿泊代金が大幅に安くなるよう、国と地方自治体が連携して大規模な割引政策を継続しているため。
3. 夏季の北海道は梅雨の影響で天候が不安定になることが多く、天候の安定した冬季に観光客が集中するようになったため。
4. 冬季の農閑期を利用して、外国人観光客を対象とした大規模な農作業体験ツアーが全国各地で定着したため。

問3 石狩川の上流域に位置し、旭川市などを中心とする上川盆地で見られる大規模な農業の特色として、最も適切なものはどれですか。（2016年 群馬県公立入試 類似）

1. 石狩川の豊富な水資源と土地改良によって作られた、広大な水田が広がる稲作地帯である
2. 冷涼な気候を活かして、牛を飼育し生乳を生産する酪農が最も盛んな地域である
3. 大規模な機械を用いた、小麦やてんさい（ビート）を生産する畑作が中心の地域である
4. 夏の涼しさを利用して、キャベツやレタスなどを出荷する高原野菜の栽培が中心である

問4 2012年から2016年にかけての、北海道における外国人宿泊者数の推移と傾向について述べた文として、統計的事実に基づいた正しいものはどれですか。（2018年 山形公立入試 類似）

1. 2012年から2016年にかけて、外国人宿泊者数は夏季・冬季ともに大幅に増加しており、特に冬季の宿泊者数が夏季を上回る傾向が顕著になっている。
2. 外国人宿泊者数は通年で増加傾向にあるが、2016年時点の統計においても、依然として夏季の宿泊者数が冬季を大きく上回っている。
3. 2012年から2016年にかけて、夏季の外国人宿泊者数は順調に増加しているが、冬季については横ばい、または微減の傾向にある。
4. 北海道を訪れる外国人宿泊者数は、2012年と比較して2016年には夏季・冬季ともに減少し、日本人観光客中心の構成へと変化した。

問5 北海道の道庁所在地である札幌周辺の地理的特徴と、地名の由来について述べた文として、最も適切なものはどれか。（2021年 熊本県公立入試 類似）

1. 石狩川や豊平川の堆積作用によって形成された石狩平野に位置し、地名は先住民であるアイヌの言葉に由来する。
2. 大規模な火山灰地が広がる根釧台地に位置し、地名は明治時代に移り住んだ屯田兵の出身地に由来する。
3. 十勝川の流域に広がる十勝平野に位置し、地名は江戸時代の松前藩の役職名に由来する。
4. 広大な泥炭地が広がる石狩平野の沿岸部に位置し、地名は本州から移り住んだ開拓使の言葉に由来する。

問6 日本の酪農において、北海道は大消費地から離れているという地理的条件に対応するため、生産された生乳の多くをある形態に変化させて出荷しています。この形態と、その主な製品の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2016年 秋田県公立入試 類似）

1. 加工用 — バターやチーズ
2. 飲用 — 牛乳やコーヒー牛乳
3. 地場消費用 — ヨーグルトや生クリーム
4. 輸出用 — 脱脂粉乳や練乳

問7 日本の農業統計において、北海道は1戸あたりの経営耕地面積が10ヘクタール以上の大規模な農家が約6割を占めており、これは全国平均の約2.5%と比較して極めて高い数値です。また、農業産出額の構成比では、乳用牛や肉用牛などの部門が50%を超えています。このような北海道の農業の特色について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2017年 埼玉県公立入試 類似）

1. 広大な土地を活用した大規模経営が行われ、生産額では畜産が大きな割合を占めている。
2. 冷涼な気候を活かして、米や果実の生産を主力とした小規模な家族経営が中心となっている。
3. 人口の多い大都市への出荷を目的として、限られた土地で野菜を育てる近郊農業が盛んである。
4. 全国平均と比べて1戸あたりの耕地面積は小さいが、機械化によって米の産出額が半分を超えている。

## 答え合わせ・解説

- 問1** **答え 2**  
**独自の言語であるアイヌ語を持ち、自然界のあらゆるものに魂が宿ると考える独自の文化を育んできた先住民である。**
- アイヌの人々は、日本列島の北部や周辺諸島に古くから定住している先住民です。彼らは日本語とは系統が異なる「アイヌ語」という独自の言語を持ち、自然の中の動植物や現象を「カムイ（神）」として敬う独自の精神文化を持っていました。現在はその伝統や文化を保護・振興するための施策が進められています。他の選択肢にある屯田兵や松前藩などは、アイヌの人々とは対照的な立場や異なる歴史的背景を持つ集団です。
- 問2** **答え 1**  
**質の高い雪（パウダースノー）を求めて来日するスキー客の増加や、雪まつりなどの冬特有の観光資源が海外で高く評価されているため。**
- 北海道の冬季観光は、海外から「JAPOW（Japan Powder Snow）」と称賛される質の高い雪を目的としたスキー・スノーボード客によって牽引されています。加えて、さっぽろ雪まつりなどの冬のイベントも国際的な認知度が高まっており、これらが2012年から2016年にかけての宿泊者数急増の主な要因となりました。一方、北海道には本州のような梅雨がほとんどないため、天候を理由とした夏季の敬遠は当てはまりません。
- 問3** **答え 1**  
**石狩川の豊富な水資源と土地改良によって作られた、広大な水田が広がる稲作地帯である**
- 北海道の旭川市周辺に広がる上川盆地は、かつては泥炭地などが広がる耕作に不向きな土地もありましたが、大規模な土地改良と石狩川の水の利用によって、日本有数の稲作地帯へと発展しました。北海道において酪農が盛んなのは主に根釧台地、畑作が盛んなのは十勝平野といったように、地域ごとの農業の特色を区別することが重要です。
- 問4** **答え 1**  
**2012年から2016年にかけて、外国人宿泊者数は夏季・冬季ともに大幅に増加しており、特に冬季の宿泊者数が夏季を上回る傾向が顕著になっている。**
- 2012年から2016年の統計を確認すると、北海道を訪れる外国人宿泊者数は通年で大きく伸びています。特に冬季（12月～3月）の伸びが著しく、2012年の約117.2万人から2016年には約300.9万人へと急増しました。この結果、冬季の宿泊者数が夏季（6月～9月）の宿泊者数を上回るという、北海道観光の新しい特徴が示されています。
- 問5** **答え 1**  
**石狩川や豊平川の堆積作用によって形成された石狩平野に位置し、地名は先住民族であるアイヌの言葉に由来する。**
- 札幌の市街地は、石狩川の支流である豊平川などが運んだ土砂が積もってできた石狩平野に位置しています。北海道にはアイヌ語を由来とする地名が多く、札幌（サツ・ポロ・ペツ）もその一つです。根釧台地は大規模な酪農、十勝平野は畑作が盛んな地域であり、札幌の位置する地形とは異なります。
- 問6** **答え 1**  
**加工用 ― バターやチーズ**
- 北海道で生産される生乳の約84%は、バターやチーズなどの原料となる「加工用」として利用されています。これは生乳のままでは長距離輸送の間に品質が低下してしまうため、保存性を高めた乳製品に加工する必要があるからです。対して、都市に近い産地では、ほぼすべての生乳が「飲用」としてそのまま出荷される傾向にあります。
- 問7** **答え 1**  
**広大な土地を活用した大規模経営が行われ、生産額では畜産が大きな割合を占めている。**
- 北海道は明治時代以降の開拓の歴史や、広大で平坦な土地という地理的条件を背景に、機械を用いた「大規模経営」が発達しました。気候面では、特に東部や北部を中心に冷涼な地域が多く、稲作よりも広大な草地を利用した酪農などの「畜産」に適しています。その結果、農業産出額においても畜産が51.7%と過半数を占め、米や野菜が中心となる日本全体の農業構造とは異なる独自の特色を持っています。